



講師にカメラの使い方を教えてもらう小野田さん

この日は、「色鮮やかなポピーとどこまでも続くような志津見大橋」を撮影中。「ポピーを撮るだけでも、表現の仕方ってたくさんありますよね。いろんな表現ができるのが面白くて」と話します。

そんな小野田さんが、風景を撮るようになったのはつい最近のこと。「イナンデザインキッチン※」で、写真の撮り方とカメラの使い方を学んだのがきっかけだと言います。

※イナンデザインキッチン：町を舞台に、動画・写真の撮影方法、取材の仕方、SNSの発信方法を学ぶ講座（町主催）



はじめての写真教室
～写真の撮り方とカメラの使い方を学ぶ～(仮)

- 対象:これから写真を始めたい人、カメラの使い方を知りたい人
- 日時:10月18日(月)18時30分～20時
- 会場:飯南町中央図書館



あの日あの場所で(撮影:小野田さん)

「この言葉でさらにやる気になっちゃいます。『笑ったら撮る』。それだけなんですけどね」

「この言葉でさらにやる気になっちゃいます。『笑ったら撮る』。それだけなんですけどね」

「人の記憶って曖昧じゃないですか。日常だったらなおさら記憶に残らないと思うんです。でも写真は、ちゃんと記録に残っていて、後で見返した時に、当時の思い出が映像として頭の中によみがえってきますよね。仲間とも写真をきっかけに、『あの時あんなことしたね』って話が膨らむのもいい。写真は、『私』と思いつながり架け橋です」と、嬉しそうに話していました。

笑ったらパシャリ

人の表情、特に「笑顔」を撮るのが好きな小野田さん。中でも、よく撮影するのは、志津見に住む子どもたち。小野田さんがカメラを構えると、面白がって周りに集まって来るそうです。

「カメラがきっかけで賑わって、子どもたちのいい表情が撮れるんです」と小野田

さん。撮った写真を子どもたちのお父さんお母さんに見せると「みんないい表情してるね。みんな楽しそう。ありがとう」という言葉が返ってくると言います。

「この言葉でさらにやる気になっちゃいます。『笑ったら撮る』。それだけなんですけどね」

私と思いい出をつなぐ架け橋

報道部の活動でも、よく写真を撮る小野田さん。撮った写真を映像で流し、ナレーションを吹き込んで作品にすることもあります。

仲間たちとまちの人を取材しに行ったり、ただ外を散歩したり。そんな何気ない学校生活を送る小野田さんの隣には、いつもカメラがありました。

「#〇〇」で写真を投稿

インスタグラムで写真を投稿する時は、簡単なメッセージと合わせて、「#(ハッシュタグ)」を付けられます。ハッシュタグにキーワードを加えることで、より多くの人に見てもらえるように。町内で撮った写真を投稿する時は、「#飯南町」を付けて投稿してみてもいい？

※ツイッターやフェイスブックなどのSNSでも効果あり

撮った写真は人と共有したい。スマホに保存しておくだけじゃもったいない



私たちが切り撮る世界

何気ない日常、いつも目にする風景。感じ方や見方が少し変わるだけで、私たちにとって特別な存在になる——。

そんなことを教えてくれる人たちがこのまちにはたくさん。カメラを始めたばかりの高校生と、長年写真を撮り続けてきた2人の写真家に会いました。

大切な場所(撮影:小野田さん)

志津見が大好きな高校生

あっちに行ったり、こっちに行ったり。しゃがんだり、立ち上がった。ポピー畑を駆け回る女の子。東三瓶フラワーパレーで、「映える※」写真を撮るの。飯南高校報道部の小野田花菜さん(志津見)です。

※映える＝輝いて見える「ひとときよく見える」などを表す言葉。「今年の新語2018(三省堂主催)」で大賞に輝く

飯南時感

まちのゆるやかな時間を感じる写真をお届け——。それが、飯南町公式インスタグラム「飯南時感」のテーマです。

雨の日も、風の日も、土日祝日も毎日投稿。令和2年4月9日に投稿し始めて、今日(6月18日)で456日目。

新型コロナウイルスの影響で、町外に出られなかったり、町外から帰って来られなかったり。そんな今だからこそ、飯南町の何気ないけど素敵な表情をお届けします。

※インスタグラム:写真を他者と共有できるソーシャル・ネットワーキング・サービス(SNS)。略して「インスタ」と呼ばれることも。

